

2010年度

科目名	ドイツ文学を読むA				
担当教員	林 進				
配当	文 2・教育2・人間2		コード	22210	
開期	前期	講時	火曜日2限	単位数	2
授業テーマ	近・現代ドイツ文学				
目的と概要	20世紀のドイツ文学を中心に読む。トーマス・マンやニーチェやカフカやグラス等の作品から有名な個所を引用・紹介し、映画ビデオ等も適宜活用しながら解説する。				
成績評価法	学期末のレポート(60%)と平常点(40%)で評価する。				
テキスト	プリント配布				
参考書	授業中に紹介する。				
履修に当たっての注意・助言	ドイツ語を受講したことがなくてもわかる内容である。				
講義計画					
第1回	オリエンテーション——ドイツ文学入門				
第2回	カフカ短編小説『橋』——タブーの侵犯				
第3回	カフカ『変身』——カフカエスク、不条理とシュールリアリズム				
第4回	カフカ短編小説『判決』——父から息子への死刑宣告				
第5回	カフカ『審判』(1)——突然の逮捕と死刑				
第6回	カフカ『審判』(2)——自己有罪化のプロセス				
第7回	グラス『ブリキの太鼓』(1)——アンチ教養小説				
第8回	グラス『ブリキの太鼓』(2)——戦争と政治と文学				
第9回	トーマス・マン『魔の山』——肉体の学校あるいは錬金術的教育				
第10回	トーマス・マン『ヴェニスに死す』——愛の孤独死				
第11回	ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』				
第12回	ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』				
第13回	リルケ『マルテの手記』——表現主義、大都会の顔と孤独と死				
第14回	リルケ『ドゥイノの悲歌』——独創的な詩的空間の「世界内部空間」				
第15回	まとめ				